

交換留学報告書

派遣先	
三重大学での所属学部・研究科	生物資源学部資源循環学科森林資源環境学コース
学年(出発時)	3年
大学名	カセサート大学
国	タイ
留学期間	2025年1月から5月の1週目
派遣先での身分	交換留学生

一日の生活スケジュール(通学時)	
	記入欄
8:00	
9:00	
10:00	授業
11:00	授業
12:00	昼食
13:00	授業
14:00	授業
15:00	図書館で自習
16:00	図書館で自習
17:00	食事
18:00	食事
19:00	帰宅
20:00	
21:00	
22:00	
23:00	
0:00	

履修科目				
科目名	時間数/週	履修単位	使用言語	授業内容(レポート、試験、授業形態等)
introduction to tropical horticulture	5時間	3	英語	午前中は毎回違う先生による講義、午後は実験をしたり、グループでプレゼンテーションをしたり、フィールドトリップに出かけました。レポート課題は出るときもあれば、出ないときもあります。試験は記述式もあれば、4択や5択問題、正誤問題もありました。
animal science	3時間	3	英語	毎回違う先生による講義。3時間休憩なしで話し続ける先生もいれば、突然3分間のプレゼンを要求してくる先生もいた。タイの畜産の概要を知ることが出来ました。牛と豚の比率が多かったです。レポート課題は出るときもあれば、出ないときもあります。試験は記述式もあれば、4択や5択問題、正誤問題もありました。
soil science	2時間	3	英語	三重大の土壌学と内容は近い(ほぼ同じ)です。試験は4択問題と正誤問題のみでした。授業形態はほぼ講義でしたが、たまにグループで調べてプレゼンをするといったことがありました。内容は留学生には難しいところもありましたが、先生の英語にタイ訛りが全くなくてすごく聞きやすい点と、スライドが分かりやすかったので、チャットGPTに質問しながらであれば十分に理解できました。
thai language in cultural context for foreigners	3時間	3	英語	前半は、簡単なタイ語の挨拶、自己紹介、買い物で使う表現、基礎単語、数字を習い、テストはオンラインで、範囲は買い物のタイ語会話でした。後半は、タイ語の類別詞、一人称・二人称・三人称の言い方、文化について学習しました。テストはなく、文化についてのプレゼンテーションがその代わりでした。

大学のサポート	
チューターの有無	なし
チューターのサポート内容	なし
語学コースの有無	あり
コース名、料金、期間等	タイ語の授業がありますし、出願の際にタイ語のコースを選ぶこともできます。

生活	
住居のタイプ	学生寮
住居の名前	krissana international dormitory
部屋タイプ	1人部屋
ルームメイト(国籍)	
室内設備	トイレ、お風呂、冷蔵庫、冷凍庫、冷房
共用施設	コインランドリー(90バーツ)、キッチン
インターネット設備	wi-fi完備
大学までの交通手段(交通機関、所要時間)	徒歩20分、スクールバス(無料)5分～7分、バイクタクシー(15バーツ)5分
アルバイトの有無	無し
アルバイトの内容	

渡航	
Visaの種類	non-ED visa
Visa申請先	大阪領事館
Visa取得にかかった日数	15日
Visa取得にかかった費用	
Visa取得方法、提出書類等	1月1日からオンライン申請が出来たので、それで申請しました。オンライン申請は各種書類の原本がいらなかったのが、良かったです。
留学先大学の最寄り空港までの経路	タクシーで20分
渡航費用	
ピックアップサービスの有無	なし

帰国後	
留年や卒業の遅れの有無	無し
有る場合、その理由	
就職活動開始時期	3年生になったころ
帰国後の進路	就職

留学にかかった費用	
現地通貨＝日本円(約)	1バーツ＝4,4円
保険料(海外旅行保険、国民健康保険等)	
学費(教科書代や語学コース授業料等)	
宿舍費(月額)	7000バーツ(30000円 2025年7月時点)
光熱費(月額)	1300バーツ(5800円2025年7月時点)
食費	食堂:グリーンカレー 40バーツ～、タイティール 20バーツ～ 屋台:チャーハン 45バーツ～ フードコート:ソムタム 50バーツ～、揚げバナナ 50バーツ～ コンビニ:マフィン 10バーツ～、牛乳 10バーツ～
その他	制服すべて合わせて4000円ほど
留学期間中にかかった費用の合計	

感想等(※800字以上で語学勉強の成果についての内容も含め、ご記入ください。)

昔から、タイに住むということが一つの夢だったのでまずそれがかなったのが嬉しいし、大学時代に海外に住むのがどういう感じか、自分に合うのか合わないのかを知れたのが良かった。そんな機会をくれた三重大学に感謝の気持ちでいっぱいです。語学勉強は出発の半年前から、結構モチベーション高く継続的に勉強していたので、自分が思っているより英語が口から出てきて、楽しかった。ただ、英語でアドリブでプレゼンが出来るほどの経験と語彙がなく、突然授業で振られたときは、毎回すごく緊張したし、タイ人フィリピン人ミャンマー人のようにスマートに自信をもってできないのが悔しく感じた。恐らく、アカデミック英語で使える型があると思うので、それと語彙を身に着けて、シンプルに分かりやすく英語で伝えられるようにになりたい。英語が母国語ではない人たちが英語が母国語で無い人たちに、英語で教えるという場に身を置くことで、英語はネイティブみたいに話すことが目標なのではなく、コミュニケーションのツールであるということを、心の底から実感でき、broken englishを話す怖さが減った。タイ人の先生はとってもタイなまりが強くても、多くの語彙を知っていて十分にアカデミックな内容を英語で議論出来ていたもので、発音に固執しすぎず、もっと「使える英語」を自分も身に着けたいと思った。授業は英語だがクラスによっては日本人がほとんどなものもあり、予想していたより外国人と話す機会が少なく、英語のモチベーションを見失ってしまうときがあった。私の場合は、なぜか日本人の他大学からきているグループとすべての授業がかぶっていたため、その子たちと仲良くなり、あまり他の子とは遊びに行けるほど近い距離間の友人になれなかったというのは、一つ悲しかった点ではある。ただ、語学を学びたいからという理由だけで、せっかく仲良くなれた日本人グループと距離を置くという選択は私にはないものだったし、皆が様々な価値観を持っていて、自分なんかの何倍も真面目で、学問に対してのモチベーションも高い方たちだったので、いい刺激を受けることが出来た。そして、せっかく出会えた友人たちに恥じない生き方をしたいと思えた。三重大学では(少なくとも私が履修したことのある授業では)、前のめりの学生はあまり多くなかったが、タイの大学では特にフィリピン人学生が、前のめりでモチベーションが高く、また教授も対話を大切にしながら授業を進めるので、環境に刺激されて楽しく、意欲的に勉強できた。

今後留学する人へのアドバイス

特に目的がなくても、正直行くだけでも意味はあると思います。日本で行き詰って逃げたいという理由でも、絶対に何かを得ることが出来ます。自分が今いる世界と違う世界を見ることで、苦しんでいるのは自分だけでないんだ、世界はここだけではないんだと心の底から実感できるからです。

報告書記入日

2025年7月4日